

令和2年高島市教育委員会第1回定例会

【 会 議 録 】

令和2年1月29日

開会 午前 9時30分

閉会 午前10時01分

令和2年高島市教育委員会第1回定例会会議録目次

(令和2年1月29日)

出席委員・出席事務局職員..... |

提出議案の題目 |

議事日程 2

(議事の経過)

令和2年高島市教育委員会第1回定例会会議録	
招集年月日	令和2年1月29日
招集の場所	高島市役所 新館2階 教育委員会室
開会	午前9時30分
教育長	上原 重治
教育委員会委員	小多 偕裕 三矢 艶子 川原林 正英 田邊 栄美子
教育委員会事務局職員	教育総務部長 北村 英明 教育指導部長 川島 浩之 教育総務部次長 (社会教育課長取扱) 川原林 剛 (高島市民会館長取扱) 山本 純子 教育総務課長 大塚 寿彦 文化財課長 松田 邦幸 市民スポーツ課長 角野 和善 図書館長 玉木 健史 学校教育課長 村田 秀俊 学事施設課長 辻 信孝 学校給食課長 長瀬 千恵美 教育総務課参事 上原 真哉 教育総務課主事 阿慈知 美佳
提出議案の題目	なし
委員提出議案の題目	なし
開議	午前9時30分
会議録署名委員	本定例会の会議録署名委員は次の委員とした。 小多 偕裕 委員 三矢 艶子 委員

議事日程

令和2年1月29日（水）

午前9時30分 開会

第1 開会（挨拶）

第2 令和元年第12回定例会会議録の承認

第3 議事録署名委員の指名

第4 報告事項

報告第1号 地域学校協働活動の現状について

第5 今後の日程

議 事 の 経 過

開 会 （午前9時30分）

（大塚教育総務課長）

それでは、令和2年高島市教育委員会第1回の定例会のほうを始めさせていただきます。開会にあたりまして、上原教育長からご挨拶をいただきましたのち、議事日程により、会議の進行をよろしくお願いいたします。

（上原教育長）

改めまして、みなさん、おはようございます。

令和2年第1回定例会の開会に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。早いもので、1月も終わろうとしています。本年も、委員の皆様のご意見を頂戴しながら、教育行政を進めて参りたいと思いますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

今年の冬は、例年になく暖かく、今日まで降雪はわずかにあったものの、積雪にまでは至っておりません。市内でも多くの雪が積もる朽木西小学校地域においても、現在積雪は0であります。私事ではありますが、私が朽木西小学校の校長をしていた、平成22年度は210cm、平成23年度は214cmあったことからすると、異例としか言いようがなく、1961年の統計開始以来最も少ないようです。

さて、去る1月24日金曜日に、びわ湖ホールで地域とともにある学校づくり推進フォーラムin滋賀が開催されましたので参加いたしました。トークセッションでは、本市にも来ていただきましたNPO法人まちと学校の未来代表の竹原和泉さんがコーディネーターとして、持続するために必要なこととは、をテーマに意見交流がございました。竹原さんは、最後に学校運営協議会では、関係者がみな当事者意識をもち、子どもたちがどのような課題を抱えているのかという実態を共有するとともに、地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのかというビジョンを共有するために熟議を重ねること、また、学校と地域の信頼関係の基礎を構築した上で、学校運営に地域の人々が参画し、共有した目標に向かっていくとともに、協働活動を行うことが必要であるとまとめられました。終了後には、フォーラムに参加されていた米子市と情報交換の場をもちました。米子市はコミュニティ・スクールを取り入れるべく準備を進めておられる段階であり、本市の取組を参考にしたいとの申し出があったためです。これも全

国コミュニティ・スクール研究大会での本市の発表を聞いてのお話だったようです。全国発信をすることによって、本市の取組の現状を振り返り、課題の整理に役立っていると感じています。この課題を今後解決しながら、より充実した持続可能な体制につなげていきたいと感じています。

また、26日の日曜日には、令和2年文化財防火デーに伴う消防訓練が、朽木宮前坊の邇々杵神社境内で行われましたので、主催者として出席いたしました。この訓練は、昭和24年に、奈良県の法隆寺金堂の壁画が火災で焼失したことを教訓として定められた「文化財防火デー」の一環として実施しているものであります。今回の邇々杵神社本殿は、1662年の大地震により損壊し、1664年に新しく建立したという記録がございます。このように文化財は、一度滅失棄損すれば、元には戻らないかけがえのない財産であります。このような貴重な文化財を火災や震災その他災害から守り、次世代に継承していくためにも、危機意識を高くもって、防災対策を進めていく必要性を教育委員会だけでなく消防本部、地域の皆さんと共有することができました。

本日は、報告事項が1件となっておりますが、何とぞ、よろしくお願い申し上げます。令和2年高島市教育委員会第1回定例会の開会に当たりましての、挨拶とさせていただきます。

続きまして、令和元年第12回定例会会議録の承認についてお諮りします。

12月26日に開会いたしました令和元年第12回定例会の会議録につきましては、お手元に配付したとおり作成することとし、このうち、非公開とした報告第37号、高島市教育委員会事務局職員の訓告処分について、にかかかる部分を除き、高島市教育委員会会議規則 第17条第3項の規定に基づき、これを公表することに異議はありませんか。

(異議なし)

(上原教育長)

異議がないようですので、令和元年第12回定例会会議録は、承認を受けたものとして、報告第37号、高島市教育委員会事務局職員の訓告処分についてにかかかる部分を除き、公表いたします。

続きまして、議事録署名委員を指名します。小多委員、三矢委員、よろしくお願い申し上げます。

本日は提出議案がございませんので、これより報告事項に入ります。報告第1号 地域学校協働活動の現状について、報告をお願いします。川原林教育総務部次長

(川原林教育総務部次長)

お手元資料1ページ、地域学校協働活動の現状についてでございます。捲っていただきまして、2ページ、これが、各地域学校協働活動の推進員さんでございます。3ページからが、本年度の活動内容でございます。まず最初に3ページでございますが、マキノ地域でございます。活動の内容につきましては、地域学校協働活動のホームページを作成されたり、また中国の湖南省と小学生との交流を行ったりと、その際にはマキノにお住いの中国の方の協力を得ることができたということで、今後の地域学校協働活動への広がりにもつながったというものでございます。次に成果といたしましては、子どもたちが地域に関わることによりまして、地域への理解や関心が深まった、またコミュニケーション能力が向上した、ということでございますし、学校としましては、ボランティアの参加によりまして円滑な学校行事の実施が図れた、また地域につきましては子どもたちの参加により、地域の活性化、世代を超えたコミュニティの形成が図れた、というような内容でございました。

次に5ページ、今津地域学校協働活動でございます。活動内容といたしましては、学校単位のボランティア組織と活動を大切にしながら、連携を図りまして、地域支援にも活動が広がるような関係づくりに努めました。また子どもたちが、環境整備活動や保育園児との交流活動、高齢者との交流事業にも参加をしました。今後も活動が広まるよう努めたい、ということでございます。成果といたしましては、地域の様々な団体とつながり、地域と学校が連携・協働して子どもたちの成長を支えるために小さな変化ですが、地道に活動をしていきたいということでございます。課題といたしましては、多様な地域の方たちに継続して関わっていただく必要がある。また協働本部を組織立ったものにして、持続可能な活動をしたいということでございます。

次は7ページからでございます。朽木西小学校の活動内容といたしましては、西小学校、西地区合同運動会に、東小学校や中学校の児童生徒の参加協力を受けて、にぎやかに開催され、子どもたちと地域の方が楽しく交流ができた、ということですし、地域の方にグラウンドの除草作業をしていただいたり、また花の種まき、植え替え等、地域の方と中学生と一緒に活動することができた。また、朽木の文化祭につきましては、東小学校、西小学校、中学校の3校が参加するという初めてのことでございます。成果といたしましては、地域の方々が、子どもたちと関わることで喜びや感動、元気を感ずることができたと言われましたし、子どもたちの自主的な行動と地域活動を結びつけることができたということ。課題といたしましては、保育園との連携を協働活動の一つとして取り組みたい、また学校づくりは地域づくり、という観点での協働活動を目指したいということです。

次に9ページでございます。安曇川地域の活動といたしましては、生徒と、安曇川住民福祉ネットワークが協働してボランティア祭りを開催されました。安中カフェによりまして、地域住民と中学生との交流が深まった、地域の方が学習支援や環境整備を実施することができた、というのが活動でございます。成果といたしましては、地域の人と子どもたちが協働して活動することで相互理解が深まったこと、地域人材や資源の活用が図れたと。課題といたしましては、中学生の意見も取り入れられるように、参加から参画への移行、地域での子どもたちの触れ合いを増やすということが課題となっています。

次に11ページ、高島地域でございます。高島地域につきましては、モデルとして他の地域より1年早く活動しておりまして、今年度で3年目ということでございます。地域の方々には事業にかかわりを持っていただきまして、つながりがより深まったということでございますし、特に九九、割り算、昔遊び道場につきましては、児童・ボランティア双方に大変好評となっております。中学生と教職員が、大溝祭りの曳き手として、また、たかしま夏まつりにスタッフとして参加するなど、学校から地域へ参加し双方向というような形となっております。成果といたしましては、協働活動が少しずつ浸透することで参加ボランティアも増え、学校に対する理解も深まったということ。課題といたしましては、学校とボランティアの意見交換を作ることが大変だということです。

最後に、13ページからの新旭地域でございます。活動といたしましては、各学校にボランティア団体があり、学校支援活動を行っているということ。昨年度から続けています朝の挨拶運動を、今年度から「学而事人おはようミーティング」と名付けて実施している。学校からの朝の読み聞かせや九九道場などのボランティア要請に応えたり、「夏休み、宿題カフェ」の開催などを行うと。成果としましては、学校からは、要請には100%応えていただいたという声、地域からは学校に入りやすくなった、明るい挨拶が増えた、などの声が聞かれるということでございます。3校の今年度のボランティアの延べ人数につきましては、約6,000人が見込まれ、昨年度の2倍になるという見込みでございます。課題といたしましては、リーダーの発掘、小中学生の体験学習や、地域貢献活動の場を広げる、保育園、幼稚園、学童保育へも支援協働の活動を広げるなど、ということでございます。

以上各地域の現状につきまして、報告をさせていただきます。

(上原教育長)

ご意見、ご質問がございましたらよろしく願います。三矢委員

(三矢委員)

質問じゃなくてもいいですか、すみません。ありがとうございます。6地域の資料を提供していただけて、まずありがたく思っております。現状を捉えるということは、本当に次のステップアップにはとても重要なことだと思っておりますし、このそれぞれの地域で見つけてこられた成果なり課題を、的確に表現していただいておりますので、みんなで共有するには大変すばらしい良い資料を提供していただいたと思います。本当に地域の活動をしていただいている推進員の方々に感謝申し上げたいと思い、読ませていただきました。その中で、事業の成果でどこの地域も書いておられるのですが、どの地域も子どものために、子どものためにということで手を貸したい、協力したいという方々が集まって、様々な支援活動が充実してきたというのは、大きな成果かなというふうに拝見しました。当初の目的の関わり人口を増やそうということで、その辺の目標は十分達成できたのではないかと、いうふうに感じさせていただきました。コーディネーターの推進員の方々がどの地域も活動の見える化に非常に努力してくださったということも、大変ありがたかったなと思います。やはり情報を共有していく、活動が見えるというのは、次やるぞという思いにもエネルギーにもなったと思いますし、学校も地域も繋ぐ、良いいろんな活動をしてくださっていると思います。メール配信をしたりとか、お便り、通信、ホームページ等々、本当にそれぞれの推進員さんが工夫して取り組んでくださったこと、本当にありがたいなと思いました。それから、それぞれの地区の中にも、先生方の負担が減ったというような記述もございましたし、学校にとっても子どもにとっても地域にとっても、本当に素晴らしいスタートになったなというふうに感じさせていただきました。それで、そういうことを私たちも共通認識をして、そこからじゃあ、どういうふうに進んでいったらいいのかというのを、今後考えていくべきだと思うんですけども、その辺の課題についても、非常に問題提起もしてくださっていますので。支援はできてきた、じゃあそこから連携・協働というところへ、どういうふうステップアップしていったらいいのかということとか、組織整備の点では、やっぱりCSの仕組みを活かしながら進めていくためにはやはり組織整備が大事だというご意見も書いてありました。中学校区での協働本部というものをどういうふう立ち上げたらいいいのか、という組織の整備のこと、それから学校運営協議会と活動本部というのを、どういうふう一体化していったらいいのかというどの地域の報告にも学校運営協議会との関わりについて、出てきておられましたので、その辺今後、その協働という内容に関わった社会に開かれた教育課程ということで、学校とどういうふうな教育課程を組んでいくのか、今までの自分たちの支援をどういうふうにして学校とともにやっていけるのか、というところとか、そういうふうな仕組みづくりというか計画について、また今度は次のステージの新しい年の始まりかなというふうに期待しております。本当に素晴らしい資料を提供してい

ただきまして、ありがとうございました。すみません、感想でした。

(上原教育長)

ほかにございませんか。小多委員どうぞ。

(小多委員)

声がおかしいのが申し訳ありません。推進員さんと学校運営協議会の関わりというのは、その辺どういうふうになっていますか。運営協議会の中に推進員さんも入って、という形になっているのか、学校運営協議会の推進員さんとの接点というか、その辺がどのようになっているのかな。もう一度確認をさせていただきたいと。

(上原教育長)

村田学校教育課長

(村田学校教育課長)

失礼いたします。小多委員のご質問にお答えします。各推進員さんは、各校の学校運営協議会の会議に出させていただいております。その中で、学校運営に関わって、地域でどんな教育をしていくと良いか、ということについてご協議いただいたり、ということもあったり、その地域のボランティア団体への声掛けというものを、推進員さんのほうからしていただいているというような状況です。

(上原教育長)

小多委員どうぞ。

(小多委員)

最初に立ち上げたとき、高島の場合は1中学校、1小学校ということで、小中1つで推進員さん1人という形でスタートしたんですけども、ほかの地区、当方地区ですけれども、いわゆる小学校が3校あるいは2校、4校というところもありますので、推進員さんが、一つにまとめたの動きを持っておられるのか。いわゆるそれぞれの学校の学校運営協議会の計画、学校の方針があると思うんですけども、それとの接点をどういうふうにされておられるのかなというふうに思ったんですけども。というのは、推進員さんからの情報の収集の仕方というのか、学校運営協議会の場へ行って、一緒に考えておられればそれでいいんですけども、何か1つするにしても、それぞれ学校の思いというものがあろうかと思

いますので、どういうふうの説明したらいいのかわかりませんが、3校を1つの中学校区にまとめて、というのは大変ではないかなど。各学校3つあれば3つそれぞれの思いがあると思います。それを推進員さんがどのように整理しておられるのか。少し言葉足らずかもしれませんが。

(上原教育長)

村田学校教育課長

(村田学校教育課長)

今ご指摘のとおり、例えばマキノでしたら4つの学校運営協議会がございますので、それぞれのところに推進員さんが行っていただいているというようなことでございます。ただ、それぞれの学校の思いというものがありますし、やっていきたいことは違いますので、その辺のところをどのようにまとめて地域として協働活動をしていくのか、ということについては大変難しいというか、課題がここにはあるんだろうなと思います。地域によってはそれぞれの学校にボランティア団体というのが組織出来て、そこが中心に動いてくださっているところもありますし、まだそういうものが出来ていない、今そういうものが出来つつあるようなところもあって、推進員さんがそれぞれのボランティア団体のリーダーの方とのつながり、会議の中で話をする事でまとまっていくところもあるんですが、一人で全部の学校のことを支えてまとめていこうとされるところは、大変難しいところがあるんじゃないかなということは思いますし、その辺のところでの課題は、推進員の方も持っておられるというところでは感じております。

(上原教育長)

小多委員どうぞ。

(小多委員)

各地域に社会教育委員さんがおられますね。また各地域それぞれに青少年学区民会議もあるかと思えます。いずれもその地域の子どもたちを見守る、あるいは育てる、という観点からの社会教育の推進ということになってくるんですが、一部でそういうところとの、推進員さんとの接点が見られないというのか、そういうようなことも聞くこともあるんです。推進員さんとして、その辺のところをもう少し念頭に入れてもらって関わりを持ってもらうことによって、地域の子どもたちの、あるいは学校の思いというか、全体的につながっていくのかなど。いずれにせよ、各それぞれの小学校が1つの中学校に上がりますので、その中学校の最終的なまとまりの中で目指す、いわゆる中学校区、子どもを育てる、というこ

とを頭にあれば、そういう問題や意見も出てこないのではないかなというふうに思いますので。もう少し、社会教育委員さん関係の方への接点を持ってもらう必要があるのかなと。その場の中で、いわゆるいろんな団体が入っておられますので、情報の共有というのが取れて、学校の方にもスムーズに情報提供できる、あるいは推進ができるというのではないかなということを思います。

(上原教育長)

ほかにご意見ございますか。川原林委員

(川原林委員)

今、小多委員がおっしゃった、各小学校が一つの中学校へ集まるということで、その地域のことをなかなかすべてを把握できないとおっしゃっていたんですが、この前府中に研修行った時の話では、府中の方の地域は、ある中学校に集まると他の小学校の地域のサブリーダー的な、その地域のリーダーを作って、その方に何かあれば全部振って、その地域のことを把握していただくと。何か役職があったかどうかは忘れましたが、そういうやり方で情報を集めたり、情報共有をしたりして、一つの中学校の協働活動としてやっていたということもちょっと聞いていたので。そういうような形が適切であるかどうかはわかりませんが、そういったこともできるんじゃないかなと思いました。

(上原教育長)

ほか、いかがでしょうか。田邊委員どうぞ。

(田邊委員)

今この報告していただいた中で、私の受け取り方が違うのかもしれないんですけども、学校のほうに地域の方が参加していただく機会がすごく増えてきたというのは、報告していただいた中によく載っているんですけども、逆に学校というか、子どもたちが地域のほうに、こんなことをしてとか、そういうことがあまり表現されていないように思うんです。地域の方が学校に来て、いろんなこういうことに参画してもらったり、こういうことに協力してもらったりして、先生方の負担も少しずつ軽くなってきたというのが、学校側としては、教育の立場としてはすごくありがたいことなんですけれども、やっぱり地域と学校が繋がるということであれば、もっと今度は学校や生徒さんが、地域の人たちとともにどんなふうに参画しているのかな、というところをちょっともう少し教えていただけたらありがたいかなと思います。

(上原教育長)

川原林教育総務部次長

(川原林教育総務部次長)

大きなものとしては、高島地域のお祭りのほうに参加されているということですし、安曇川のほうもボランティアに参加されているということですし、課題のほうにもありましたが、地域に、小中学生のほうが入っていけるような活動を紹介していただけるような形にもしたいという課題もございましたので、今後もそういうふうには、積極的に地域のほうへ小中学生が入っていけるような事業などを紹介していきたいというようなことも聞いておりますので、そういうふうに進めていきたいと思っております。

(上原教育長)

村田学校教育課長

(村田学校教育課長)

今の、学校から地域へというようなことですが、昨年の課題として地域に出ることが少ないということがありましたので、今年度中学校では、子どもたちを学校の外に、また地域で活躍する場をどんどん作ろうということで、取り組みを進めていただいております。また別のところで報告をさせていただこうと思っているんですけども、学校によっては、学校の全生徒数よりもたくさんの、外での総活動数があがっているというようなところもありますし、地域で活動する中学生の姿を見て、地域の方が元気になっていただけて喜んでいただいていると、そしてまた中学生が頑張っていることをほめていただけて、さらに意欲をもって、次またやりたいなということを思っていてくれる。そんな相乗効果と言いますか、そんなことも少しずつ出てきていると。その辺の成果を今年度あげられているかなということは感じております。

(上原教育長)

田邊委員

(田邊委員)

今おっしゃっていただいたお答えなんですけれども、それで私はいいと思うんですけれども、もっとこういうところの中に、学校のことばかりではなくて、生徒さんだったり、地域のほうにこんなふうにした、というようなことをもっとみんなに広く知っていただくような、報告ではないですね、何と言ったらいいの

か、こういうことをちょっと出していっていただけたら、地域の人も、あ、中学生だったり地域の方にこんなふうにして来てくれているんだ、というのをもっとわかっていただけたら、もっともっと地域の方からも声をかけて、こんなものがあるから中学生に助けてほしいんだ、というような声も聞こえてくるんじゃないかなと思って。もうちょっとそここのところを私的には、地域の人に知っていただけるような報告を書いていただけたらありがたいなと思います。

(上原教育長)

他にございますか。ないようですので続きまして、5. 今後の日程について、事務局から説明をお願いします。

(事務局、上原参事が内容説明)

(上原教育長)

それでは、以上で本日予定しておりました定例会の内容は、すべて終了しました。これをもちまして本日の定例会を終了します。

定例会終了 午前10時01分